

新型コロナウイルス感染症対策のため、休校が続いています。

今回の「美術科」家庭学習課題は、「美術科」オリエンテーション資料を読んで授業について（意識を含めて）準備をすることと、鑑賞ワークシートの取り組みを通して身の回りの「美しさやよさ」を造形的に捉えることの2点です。

プリントは2枚とも、初回美術の授業に持参してください。

みなさんと一緒に美術の授業ができることを楽しみにしています。 美術科：中島 嵩

2020年度 美術科オリエンテーション

1. 美術科の基本的な考え方

あなたが好きなもの、ひきつけられるものは何ですか。

わたしたちは、かっこいい・かわいい・すごい…など、あこがれの気持ちをもって周りの世界をみます。素晴らしい景色がみられる有名な場所だけでなく、季節や時間によって変わる風景にも素晴らしいと感ずることがあります。また、服や食器など、身の回りのものでも、自分が「いいな」と思う、色や形などを選んでいきます。これらが「美しい」と感ずる心、そして力です。

美術科では、美術の活動を通して、「みる」力、「かんがえる」力、「あらわす」力を高めます。あなたが「美しい」と感ずるものは、時と共に、あるいは、その時の自分の調子によっても変わることがあります。また、あなたと他の人の感ずり方が異なることもあります。不安に思ふこともあるでしょうが、それは「気づき」や「成長」のタイミングです。対象をよくみつめましょう。そしてかんがえましょう。きっとその先には新しい素晴らしい世界が広がっています。そして、わたしたちは、つくること、はなすこと、かくこと…といった、「あらわす」ことができます。自分の感じたこと、考えたことを「あらわす」、誰かのことをおもい、用途・利便性と美しさの調和などを考えて「あらわす」。あらわした人によって様々な表現がうまれてきます。楽しみですね。鑑賞では、そんな一人ひとり、様々な表現から、「美しい」ところ、よいところを見つけ、お互いの成長につなげていくということも行ないます。

2. 授業について ～大切にしたいこと～

わたしたちは元々、豊かな発想力と共に、試行錯誤しようとする力、「表しながら考える、考えを深める」力を持っています。しかし、多忙な日常や、生活の中で培ってきた価値観から、あらゆる美の可能性ではなく、答えの見えている「想定した美」「想定したゴール」にとらわれることも少なくありません。そして、その「想定」に合わない、届かないと感ずることから、失敗した、上手いかなかった、苦手だと考えている様子が見られます。

美術の授業では、自他のよさをを見つけ、認め合いながら、表現や鑑賞の活動を通して、「想定したゴール」にとらわれず、その場で起きたことを柔軟に取りこんで、新たに発想し、今よりよりよくしていこうと試行錯誤し、表しながら、可能性について考え、確かめ、楽しみながら新たな価値の創出にチャレンジする力を高めることを大切にしています。